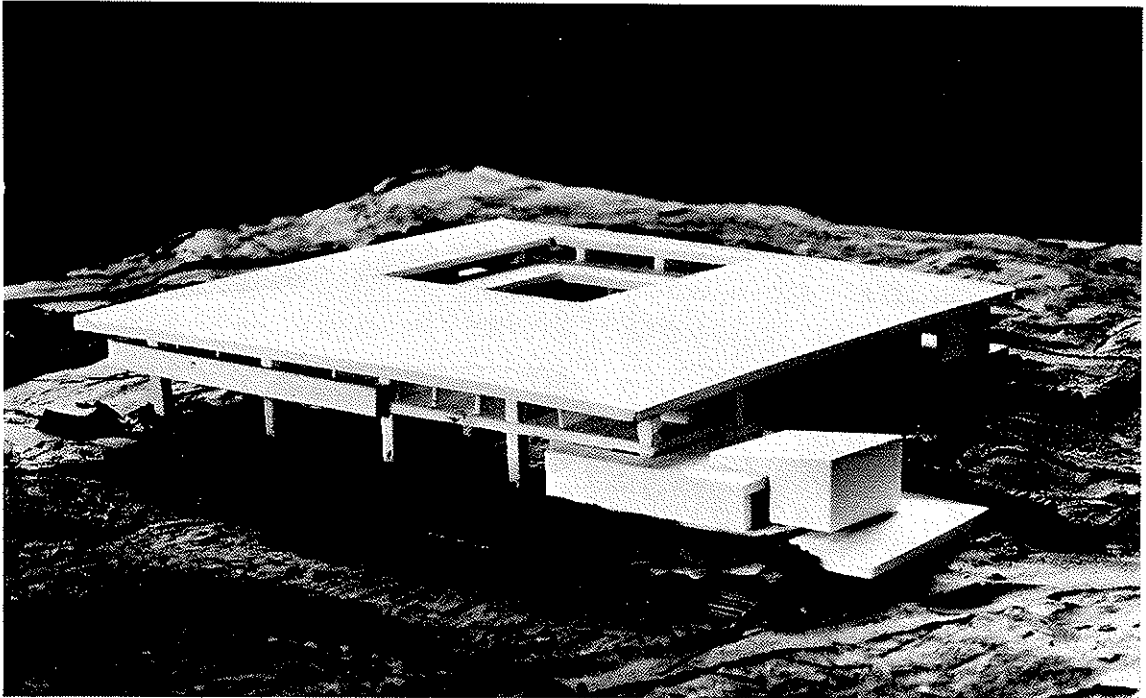


# 第99号 校友会報 28卷1号

昭和55年4月



富士吉田セミナー校舎（昭和55年3月着工、56年1月完成予定）

## 目 次

○挨拶.....前島為司・伊藤娜爾...1	・大 学.....9
○合併経過報告.....総 務 部...2	・高等学校、専門学校.....10
○第31回評議員会.....総 務 部...3	○昭和55年新年懇親会報告.....広 報 部...11
○第23回定時総会.....総 務 部...3	○第4回全国大会（中国大会）開催のお知らせ .....落合 康男...12
○昭和54年度全国支部長会議.....4	○近況報告（単体同窓会）
○学園同窓会会計報告.....4	・機械工学同窓会.....八木平八郎...12
○第24回定時総会開催のお知らせ.....前島 為司...5	・電気同窓会.....内山 太...13
○昭和55年度事業計画.....5	・建築同窓会.....小高 鎮夫...13
○昭和55年度歳入・歳出予算書.....5	・応化会.....間宮富士雄...13
○昭和54年度収支決算書.....6	・専門学校同窓会.....森山 健次...14
○昭和54年度財産目録.....6	・高等学校同窓会.....足立 剛...14
○卒業生募金協力委員会発足に当たり.....6	○校友会だより.....15
○創立90周年記念事業募金の現状とお願い .....宮本 道...7	○支部だより
○近況報告	・支部の活動状況報告.....落合 康男...16
・法 人.....8	○井出英人氏第27回ホーム技術賞受賞.....16

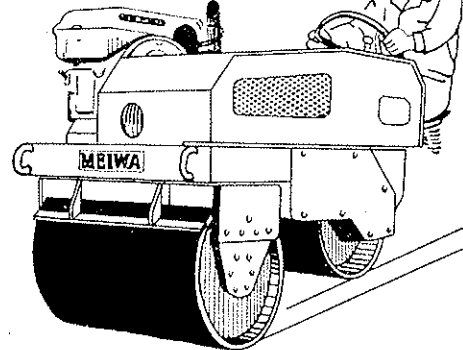
# 締固め機械のトップ

## 振動ローラー

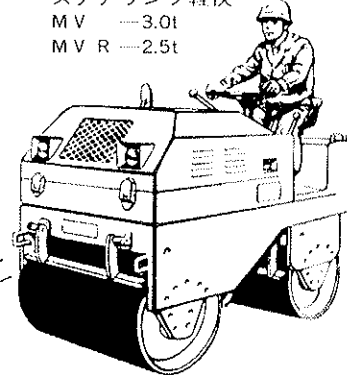
両輪・駆動・振動

明和

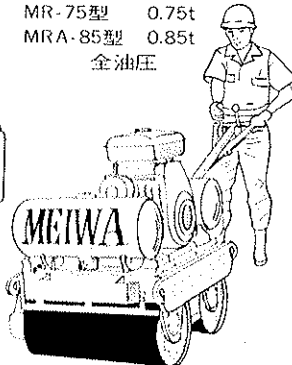
MUS-12型 1.2t



アスファルト舗装  
サイド転圧可能  
ステアリング軽快  
MV → 3.0t  
MV R → 2.5t



上下回転式ハンドル  
MRA-65型 0.65t  
MR-75型 0.75t  
MRA-85型 0.85t  
全油圧



## パイコロプレート

アスファルト舗装  
表面整形  
P → 120kg  
P → 90kg  
P → 80kg  
VP → 70kg  
KP → 60kg

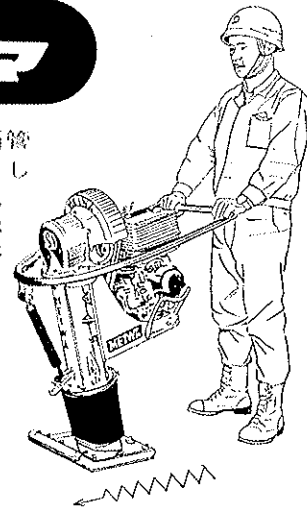


## パイコロランマ

道路・水道・瓦斯管  
電設・盛土・埋戻し  
RA 120kg  
RA 80kg  
RA 60kg

〔防音型〕

新開発の  
タンランマ  
RT 75kg  
自動給油式



(カタログ進呈)



社長 月原 貢 (機58)  
昭和43年春 勲四等旭日章  
昭和53年秋 紺綬褒章

## 株式会社 明和製作所

川口市青木1丁目18-2 〒332  
本社・工場 Tel. (0482)代表(51)4525~9  
大阪営業所 Tel. (06) 961 0747~8  
福岡営業所 Tel. (092)411 0878・4991  
広島営業所 Tel. (0822)93 3977/30・3758  
名古屋営業所 Tel. (052)361 5285~6  
仙台営業所 Tel. (0222)96-0235~7  
札幌営業所 Tel. (011)822-0064



挨拶

理事長  
前島 為司

春爛漫、好い日が続いております。  
会員御一同それぞれの御清栄を御慶び申し上げます。  
昨年、校友会と同窓会の合併を皆様の絶大な御努力で見事に懸案解決し、新生校友会としてスタート致しました。

愈々学園発展への協力、校友各位の親睦と発展の為強力に運営して参り度いと考えております。

今後は、本部と支部間の密接な連絡と会運営基盤、特に、経済上の問題の安定確立等、なさねばならぬ事が山積みしております。

私は、昨年7月1日に学園の理事会互選の結果、理事長に就任致しました。身に余る大任で、皆様の御支援を頼りとして今日迄務めて参りました。昨年は新宿本校南棟と八王子の図書館の落成等がありました。今後も学園の将来計画或は、90周年記念事業の推進等懸命に努力してまいります。90周年記念事業募金は、かなりの金額となり、其の事業の一環であります富士吉田セミナーハウスも工事に着工しており、その所要資金として未だ十分ではありませんので今後共、一段と御協力を御願致します。

終りに学園と校友会の限り無い発展を祈って挨拶と致します。



挨拶

学長  
伊藤 鄭爾

私学は、校友の協力なくしては発展もありえませんし、危機や転換期の克服もありえません。明治29年、大正12年の校舎焼失の時もそうでしたし、昭和3年の校名変更、昭和24年の新制発足時もそうでした。

そういう時に必要だったのは校友の愛校心と学園の社会的使命感に基づく内部結束と活動であったと存じます。私はその点については、今もまったく心配しておりません。もちろん色々な事があったでしょうが、学園の未来について差があったとは思いません。

ただ現代の学園という立場からすれば、明治や大正はもちろんのこと、昭和前半の社会的、経済的、物的環境とは、全く異なっているのは紛れもない事実であります。人の意識も変わりましたし価値観も多様化しました。そして何よりも学園は、学園内だけに目をむけていたのでは、経営・教育・研究の点で発展はおろか存立さえもむずかしいのであります。

80年代は好むと好まざるとにかかわらず、国際的なインパクトは、直ちに学園に及ぶのが実情であります。私は校友会の皆さんが、狭い視野の中に閉じこもられずに、学園にたいし発言され協力して下さることを期待しております。

学園は、創立百周年を目標にして学園将来計画の作業を始めております。これには、学園像についても資金面についても、また意志統一の面に於ても、あまりにも困難な問題があります。しかし最大の問題は困難さにあるのではなくして、困難を発展の出発点になしうる英知と実行力をもっているかにあります。

皆さんの日頃のご協力を感謝すると共に、今後の発展をお祈り申し上げます。

×	×	×
×	×	×
×	×	×

# 合併経過報告

## 総務部

多年の懸案でありました校友会と同窓会の合併が実現し、昨年9月に合併総会が行われ新生校友会が発足したことは、ご承知の通りですが、この度合併後初めての会報が発行されたことは誠に喜ばしいかぎりです。

この機会に合併に至る経過を振り返り、簡単にその概要を述べてみたいと思います。昭和42年に学園同窓会が発足して以来、工学院大学学園の中には、一つは法人格を持つ全国支部組織で構成された校友会と、一つは任意団体の学科別、学校別で組織された同窓会の上部団体、学園同窓会が併立することになりました。しかし卒業生の会が二つあることは時としては混乱をもたらし又、学校側との対応や、卒業生間の交流にも支障をきたすことになったため、昭和45年には、両会間に連絡協議会が設けられました。更に各関係者より両会の合併への要望が出され、翌46年には合併問題研究会が発足し、合併への気運は、徐々に高まって来ました。そして48年3月の第六回会合において

- (1) 単体同窓会の活動は今迄通りである。
- (2) 新しい会の名称、法人組織は特にこだわらない。
- (3) 新しい会の運営費は、各同窓会の分担による。

の合併3原則が了承され、50年3月にはその実務委員会として合併小委員会が発足しました。そして約2年をついやして新定款の原案が作成され、52年5月、両会長の間で、定款、施行細則、内規等は合併後速かに委員会をもうけて再検討することを条件に、社団法人工学院大学学園校友会を設立する。の覚書が交換されて、両会はそれぞれ合併への諸手続を進めることになりました。しかし、新会の名称の変更と代議員制を骨子として定款改正案は、それ迄の校友会の定款とは大幅に異ったため定款改正案の提出先の文部省からは、原案通りには認可されず、(1)会名、理事の定員等は現行通りとする。(2)会費の金額は定款へ明記する。(3)代議員制は前例がない等の理由で原案の修正を要求されました。そこで再度検討した結果、早期合併を実現するために、法人格を継承する以上は文部省の指導に従うこととし、会名、会費等の問題は合併後再検討するなどの再度の両会長の覚書をも

って、最終定款改正案を文部省に提出し、昭和53年9月ようやくその認可があり、新会発足への運びとなりました。

定款改正承認後、直ちに昭和54年4月より新会発足を期してその準備を進め、54年3月には、定款改正の主旨と経過を明確にするための前文が発表されました。しかし評議員候補者の選出等に手間取り、54年7月開催の理事会、評議員会を経、9月2日の総会に前島為司校友会会長を、引続き新会々長に選出し、両会会員のたゆまない努力と、学校側の協力の元に、ここに合併が実現したわけでありませう。

以上が合併までの経過の概要ですが、新生校友会の特徴は、全卒業生は校友会の会員として、縦割ともいべき出身学校(大学は学科)別で構成する6同窓会に所属すると共に、全国的規模の横割的組織である全国各支部に自由に参加することが出来ることで、一人の会員は縦横二つの組織の中で、それぞれ時に応じて様々な活動に積極的に参加することが可能となっております。

最後に皆様の御質問の多い会費、名簿そして会報の件ですが、今迄の校友会の会員のうち、終身会費納入者は引続き所属する各同窓会の終身会員となります。又年会費納入者は各同窓会の規定に従うを原則としますが、維持会費問題も含めて、現在会費検討特別委員会を設けて検討中であります。又名簿については現在は各同窓会が別々に名簿を発行しております関係上、あと3年くらいかけて、各同窓会が名簿のデザイン、サイズ、内容等を同一にしながら合本可能なように編集して頂くようにと研究に入っております。なお、各支部が希望している支部ごとの名簿については、少なくとも県単位ぐらいのまとめではどうか、検討中であります。最終的には現在のマークカードシステムから、電算機を利用したマグテープシステムへの移行が最適と思っております。会報は年一回を総会通知を同封して総会前に発行致しますが、全国の支部の要望もあり、少しでも新しい情報ということで、更に中間で一回の計2回の会報発行については、現在検討中というところです。(文責 落合、小高)

# 第31回評議員会

## 総務部

昭和54年7月22日(日) 工学院大学会議室  
 定数 225名 評議員会成立 113名(定員外)  
 出席者数 102名 委任状 77名 計 179名  
 議長 足立剛一 副議長 篠原梅吉  
 書記 安原 豊  
 出席監事 伊藤真治、戸部英瑞  
 議事録署名人 隈元武彦、神前 建  
 議事  
 第1号 理事および監事選出について

単体選出評議員候補が承認された。

——途中理事会開催——

- 第2号 昭和53年度事業報告および収支決算承認について
  - ◎昭和53年度決算についての監査報告
  - 第3号 昭和54年度事業計画および収支予算承認について
- 承認

# 第23回定時総会

## 総務部

昭和54年9月2日(日) 工学院大学新館講堂  
 議長 金尾武彦(B・99・建)  
 副議長 宮沢正義(D・141・電)  
 書記 蓮池嘉和(G・1・電)  
 議事録署名人 鈴木基泰(F・3・建)  
 北村菊男(A・66・機)  
 定員数の確認  
 総会通知発送数 30,371通  
 // 着部数 28,507//  
 委任状提出者数 868名  
 総会出席者数 100//

定員数(会員現在数の1/20) 1,426名  
 (但し定員不足分に関しては施行細則第8条を適用する)  
 議案  
 第1号 昭和53年度事業報告…小野塚総務部長  
 第2号 昭和53年度収支決算報告…南経理部長  
 第3号 昭和53年度監査報告…伊藤監事  
 第4号 昭和54年度事業計画…小野塚総務部長  
 第5号 昭和54年度収支予算…南経理部長

承認

### 新役員紹介

### 昭和54年度理事・監事名簿及び役務分担 (50音順)

会長	前島 為司(A建72)	内山 太(G電4)	小高 鎮夫(G建2)
副会長	足立 剛一(E工化1)	森山 健次(D建119)	八木平八郎(G機3)
//	間宮富士雄(C化2)	池田 和夫(G工化3)	戸部 英瑞(A士78)
監事	伊藤 真治(A士69)	八木平八郎(担当副会長)	
総務部	小高 鎮夫(担当副会長)		
部長	小野塚政雄(B機93)		
理事	石成 和男(E電1)	北村 菊男(A機65)	高橋 孝治(D電142)
//	杉山 颯司(B造108)	藤原 幸男(G化工3)	吉田 義雄(B建82)
経理部	間宮富士雄(担当副会長)		
部長	南 喜八郎(B電79)		
理事	浅井 健一(G建3)	竹内 七蔵(B電101)	
広報部	森山 健次(担当副会長)		
部長	榎本 忠良(E電1)		

- |       |               |                |               |
|-------|---------------|----------------|---------------|
| 理事    | 金尾 武彦 (B建99)  | 逆池 嘉和 (G電1)    | 角田 孝助 (A電72)  |
| //    | 松島 一郎 (B建83)  | 武笠 忠 (G機5)     |               |
| 支部拡充部 | 足立 剛一 (担当副会長) |                |               |
| 部長    | 落合 康男 (C化1)   |                |               |
| 理事    | 磯田 昌男 (G化工2)  | 隈元 武彦 (D土141)  | 坂本 進 (B内燃104) |
| //    | 高野 奏 (G電4)    | 丹羽 宏之 (G工化3)   | 鈴木 基泰 (兼)     |
| //    | 鈴木 和夫 (C化3)   | 宮本 陸一 (D応化136) |               |
| 事業部   | 内山 太 (担当副会長)  |                |               |
| 部長    | 篠原 梅吉 (B建83)  |                |               |
| 理事    | 愛川 高朗 (G建8)   | 青木 浩一 (G機5)    | 菊池 誠 (B土105)  |
| //    | 久保田 伴治 (B土93) | 久保 政三 (B電82)   |               |
| 編集部   | 小高 鎮夫 (兼)     |                |               |
| 部長    | 南雲 芳夫 (D建127) |                |               |
| 理事    | 伊藤 喜章 (E機8)   | 内田 恒雄 (G機2)    | 江田 清利 (B土105) |
| //    | 金田 昭治 (G建1)   | 鈴木 基泰 (F建3)    | 平塚 茂穂 (G工化4)  |
| //    | 松山 守也 (G電2)   | 宮沢 正義 (D電141)  | 山下 与作 (A建73)  |
| //    | 渡辺 幸男 (G機4)   |                |               |

### 昭和54年度全国支部長会議

昭和54年10月28日(日) 大学新館講堂  
 出席者 60名(招待4名、会員56名)  
 出席支部 26支部(支部数75 職域支部1)  
 議案  
 1 第4回全国大会(中国)開催について  
 昭和55年広島県に決定

- 1 支部の現状報告  
 1 新会務経路報告及び運営について  
 1 90周年募金協力依頼について  
 その他  
 ○新役員紹介 ○学校側、就職依頼  
 ○南館見学

### 学園同窓会会計報告

間宮 富士雄

学園同窓会会報にて昭和54年5月1日より10月4日までの決算報告を致しましたが10月4日以降の繰越金精算につき次のとおり御報告申し上げます。(単位 円)

○収入の部	繰越金	457,064
	繰上金	2,887
	合計	459,951
○支出の部	アルバイト費	28,532
	消耗品費	5,271
	通信費	23,600
	交通費	13,500
	会議費	56,950
	会報発行費	5,600
	雑費	2,000
	合計	135,453
	差額	324,498

差額 324,498 を各単体同窓会へ返還する。

機械工学同窓会	59,710	建築学科同窓会	56,545
応化会	41,141	高等学校同窓会	35,235
電気同窓会	62,452	専門学校同窓会	69,415

上記返還金より第13回代議員会および懇親会の各単体同窓会負担金を差引くと最終数字は次のこととなります。

機械工学同窓会	59,710-17,940=	41,770
応化会	41,141-10,764=	30,377
電気同窓会	62,452-14,352=	48,100
建築学科同窓会	56,545-14,352=	42,193
高等学校同窓会	35,235-5,382=	29,853
専門学校同窓会	69,415-26,910=	42,505
合計	324,498-89,700=	234,798

社団法人 工学院大学校友会

### 第24回 定時総会開催お知らせ

会長 前島 為司

日時 昭和55年5月25日(日) 午後1時30分より  
 場所 工学院大学第1会議室(8階)  
 議案  
 第1号 昭和54年度事業報告および収支決算報告承認の件

第2号 昭和54年度財産目録承認の件  
 第3号 昭和55年度事業計画および収支予算承認の件  
 <注意>本誌に同封の郵便はがきにより、折り返し出欠の有無を御回答下さい。

### 社団法人 工学院大学校友会 昭和55年度事業計画

- 学校教育施設の改善に関する助成(定款第5条第1項)
  - 学校教育施設の改善  
学校法人工学院大学の意向をもとに協議の上で援助する。
  - 学園90周年記念事業への協力
- 学校に存続する学生・生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成(定款第5条第2項)
  - 学生・生徒の研修援助  
学生・生徒の研修に際してはこれを支援する。
  - 教職員の調査研究の助成  
本学園の教職員の調査研究には助成金を贈って援助する。
- 会誌および学術図書等の刊行(定款第5条第3項)
  - 校友会々報の発行  
会報を発行し、学術記事や学園の近況、会の動静、会員の消息等の記事を掲載して、会員等に配布する。
  - 会員名簿の刊行  
会員名簿を刊行するために委員会を作って検討する。
- 学術に関する講演会および見学会等の開催(定款第5条第4項)
  - 学術に関する講演会の開催
  - 工場等の見学会の開催
- 会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置(定款第5条第5項)
  - 校友会諸設備の整備、及び校友会館の建設  
校友会事務室、会議室等を整備し、将来、校友会館を建設するための具体的計画を促進し、実行するよう努力する。
  - 懇話会等の開催  
会員相互の親睦および業務提携等をはかるため懇話会等を開催する。
  - 支部の支援  
支部活動を支援し、会員の連絡および提携を密にする。
- 学校の行なう就職斡旋および紹介に関する援助(定款第5条第6項)
  - 就職斡旋、事業紹介等を行なう。 以上

### 昭和55年度 歳入・歳出予算書

収 入 (円)		支 出 (円)	
1. 会費収入	5,418,000	1. 事務総経費	5,988,000
(1) 機械	1,063,000	(1) 人件費	3,985,000
(2) 応化	759,000	(2) 事務所費	622,000
(3) 電気	1,064,000	(3) 会議費(交通費共)	1,201,000
(4) 建築	977,000	(4) 対外費	80,000
(5) 高専	500,000	(5) 慶弔費	100,000
(6) 専門	1,055,000		
2. 寄付金	50,000	2. 事業費	870,000
3. 事業収入	90,000	(1) 広報部費	100,000
		(2) 支部拡充部費	700,000
4. 利子収入	200,000	(3) 新年懇親会	20,000
		(4) 編集部会	50,000
5. 雑収入	30,000	3. 退職引当金	200,000
6. 運用基金繰入	1,712,000	4. 予備費	442,000
7. 前年度剰余金	0		
合計	7,500,000	合計	7,500,000

昭和54年度 収 支 決 算 書

歳入の部 (円)				歳出の部 (円)				自 昭和54年4月1日 至 昭和55年3月31日
款 項	予算額	決算額	増△ 減	款 項	予算額	決算額	増△ 減	
1. 会費収入	7,116,000	3,963,000	3,153,000	1. 事務総経費	8,222,000	7,145,561	1,076,439	
(1)正会員費	6,666,000	3,936,000	2,730,000	(1)人件費	4,310,000	3,565,211	744,789	
(2)終身会員費	150,000	0	150,000	(2)事務所費	2,250,000	2,834,279	△584,279	
(3)賛助会員費	300,000	27,000	273,000	(3)会議費	1,512,000	646,071	865,929	
2. 寄付金	200,000	4,830	195,170	(4)懇親会費	130,000	20,000	100,000	
3. 事業収入	250,000	172,800	77,200	(5)対外費	30,000	80,000	△50,000	
(1)会報広告料	250,000	172,800	77,200	2. 事業費	1,250,000	1,028,504	221,496	
4. 積立金等繰入	2,129,000	3,766,278	△1,637,278	(1)会報発行費	550,000	493,594	56,406	
(1)運用基金繰入	671,988	2,309,266	△1,637,278	(2)支部活動費	500,000	499,910	90	
(2)前年度剰余金	1,457,012	1,457,012	0	(3)慶弔費	200,000	35,000	165,000	
5. 利子収入	955,000	551,973	403,027	3. 積立金	1,050,000	331,406	718,594	
(1)通常経費利子	5,000	16,800	△11,800	(1)基本財産利子積立	300,000	231,406	68,594	
(2)基本財産利子	300,000	231,406	68,594	(2)運用財産利子積立	650,000	0	650,000	
(3)運用財産利子	650,000	303,767	346,233	(3)職員退職金引当	100,000	100,000	0	
6. 雑収入	0	46,590	△46,590	4. 予備費	128,000	0	128,000	
合 計	10,650,000	8,505,471	2,144,529	合 計	10,650,000	8,505,471	2,144,529	

昭和54年度 財 産 目 録 (55.3.31現在)

1. 基本財産	4,275,600円
2. 運用財産	7,233,879円
内訳	
1. 運用財産基金勘定	5,433,159円
2. 終身会員費積立金勘定	1,044,647円
3. 職員退職引当金勘定	457,214円
4. 備品	70,999円
5. 仮払金勘定	227,860円
1 + 2 = 合 計	11,509,479円

卒業生募金協力委員会発足に当たり

総 務 部

創立90周年記念募金委員会の近況については3月3日現在、申し込み金額がようやく200,657千円になりましたが、会員皆様の絶大な御協力にもかかわらず最少限3億5千万円にはまだまだその差があります。そして校友会と致しましては、昭和56年3月31日を募金の最終日と募金期間の延期がなされた事により、現

募金委員を中心に、有力卒業生、有力企業、各支部として各単体同窓会等、個別に目標を定めながら学校側と共に募金活動に協力して参りたいと思います。又その様な目的を円滑に運営するために、卒業生募金協力委員会を理事会の承認のもとに設立いたしました。皆様方の絶大な御支援をお願い申し上げます。

創立90周年記念事業募金の現状とお願い

創立90周年記念事業事務室長

宮 本 道

去る昭和52年7月から、開始されました創立90周年記念事業の募金申込みは、大方のご芳志とご協力により、本年2月中旬をもって、総額2億に達しました。この中には、卒業生の方々から賜りましたもの、件数にして1,800件を越し、金額で約4千7百万円に達しております。

資金募集趣意書をご覧になりますとお分りのように、この記念事業の第一の目的とされている富士吉田のセミナー校舎建設は、3億円の資金を要しますので、更に今後の募金活動は、継続して努力を重ねられねばなりません。然し工事については、目標の満額に達するのを待たずして始めるわけには最早これを許しませんので、愈々本年3月中旬に着工ということに決定されました。本文をご覧いただく頃には、南の空に秀峰富士を仰ぐ静かな建設地に、雑音も高く届していることでしょう。完成予定は明年1月となっておりますが、その規模は、凡そ次のとおりでございます。校舎の構造は、鉄筋コンクリート造2階建、建築面積1,287㎡、階別用途は、1階に大セミナー室、小セミナー室、浴室その他、2階に玄関ホール、宿泊室、中セミナー室、ラウンジ、食堂、厨房、事務室等となっております。

さて、前記いたしましたように、募金額は校友の皆様方のご協力によりましても、まだ全体として、一口に言っても不十分だと言わざるを得ません。この現状から見て52年に開始されました募金期間が延長され、56年3月末までとすることに、この程学園理事会で決定されました。ご承知のように学園には創立90周年記念事業委員会が設置され、委員には、学園役員、大学各科主任教授、校友会役員、高校、専門学校、後援会等より参加され、この事業の推進に努力されております。またその下部機関には、募金委員会、募金推進会議があって、多くの方々の弛ゆまない活動が続けられております。これら委員会の委員長は、校友会会長前島為司先生であり、同時に

学園理事長として昨年7月に就任され、一段と記念事業達成に執念を燃やされておられます。われわれは皆なで委員長を支え、残された今後1ヶ年間の募金期間で、更に工夫と努力を致し、より多くの募金実績を挙げるべきかと存じます。そのためには、学園関係者一団となって、追い込みをかけることでもあります。会社団体からの募金は、卒業生の在籍する先には続けてお願いすることとし、社会性を帯びた法人への働きかけ、また教職員の方々はもちろんのこと、校友の皆様方にも、各学校、各支部共、丹念に活動を進められて、まだご応募賜らない筋には、この際何分のご理解ご援助をいただけるよう念じておるわけでございます。また既に追加応募されている方もありますので、このこともお考えいただければこの上もない喜びと存じます。下記募金実績の現状を付して、ご参考に供しますと共に、重ねてお願い申し上げます。

記

募金申込状況(累計) 55年2月12日現在

申込み件数 5,923件

申込み金額 200,372千円

内訳	卒業生	1,844件	46,910千円
	会社団体	169件	93,725 //
	教職員	330件	15,045 //
	父母	3,568件	44,337 //
	その他	12件	355 //

卒業生関係出身学校別実績 55年1月23日現在

工事学校、工学院	313件	20,342千円
大学機械系	330件	6,456 //
// 化学系	330件	5,697 //
// 電気系	263件	3,778 //
// 化学系	259件	3,777 //
高等学校	77件	2,095 //
専門学校	257件	4,470 //
卒業生諸団体他	8件	150 //

合計 1,837件 46,765千円

近況報告

法人

総務部

○ 役員の変動

前年度末日に常務理事を退任した横田道夫現理事及び昨年6月30日に理事長を退任した伊藤郷爾(学長)現理事の後任並びに理事長職務代理者は、下記のとおりです。任期は昭和56年3月末日まで。

- 理事長 前島為司
- 総務担当常務理事 山内邦比古
- 経理担当常務理事 富子勝久
- 学務担当常務理事 平川紀一
- 理事長職務代理者(第1順位)常務理事・山内邦比古
- 〃 (第2順位) 理事・鈴木昇太郎

○ 学園将来計画委員会

昭和50年6月に設立発足し、諸般の事情により中断していた学園将来計画委員会が、下記の構成員をもって昨年再開した。

- 委員長 学長
- 委員 法人理事 法人監事 法人評議員2 常務理事会参与 大学(教務部長、学生部長、管理長)3 大学各系列学科5 高等学校校長 専門学校校長 校友会4 大学後援会会長 高校PTA会長

6月29日に開いた第1回目の委員会で、将来計画推進議案、フローチャート案及びワーキンググループの設置が承認された。

ワーキンググループの委員には、生産機械工学科・横山倉三助教授、建築学科・中嶋泰助教授が選任され、伊藤(学長)委員長のもとで毎月定例部会を開いている。これまで将来計画委員会の運営方法、意志決定の基本方針等検討され、今後はラジカルで論理的かつ抜本的な提案をして行くこと等が確認された。2月の定例会議では専門学校関係者も出席願ひ、高等教育に対する国民の要求の多様化に伴う生徒の各種専修学校、各種学校志向に対応した本校専門学校の在り方、将来の展望等のヒアリングを行った。

○ 名誉顧問制について

寄附行為上の顧問制とは別に本学園に特に功労顕著な

人(当面本学園に対して500万円以上の寄付をされた方)のうちから理事会の議により理事長が名誉顧問の称号を贈与する名誉顧問制度が設置された。

○ 富士吉田セミナー校舎建設について

この施設は本学園創立90周年記念事業によるものであって、昭和52年以来校友会会員の皆様方にも記念事業募金の協力をお願いして来た。昭和55年2月15日現在2億円余の寄付申込みがあり、この募金額では記念事業計画のすべてを実施することは不可能で、本年度末まで予定していた募金期限をさらに1年間延長し、目標の達成をはかるため努力することとなった。

多額なご寄付に対して厚く御礼申し上げるとともに、今後とも一層の協力をお願い申し上げたい。

さて、この施設建設地の富士吉田校地は中央本線「新宿」駅から「大月」乗換え富士急行線、或いは中央高速バス「新宿高速バスターミナル停留所」から約2時間の「富士吉田駅」を下車し、南(富士山方面)へ約2.5km上った所に位置している。

そしてこの施設(鉄筋コンクリート造2階建、延面積1480.13㎡)は、富士吉田校地のほぼ中央、北側には大きなグラウンド、西側及び南側には7~8mの松林に囲まれた静かな環境の敷地に建てる予定で、工事着工は3月末、今年中には竣工の予定である。

○ 教育研究施設建設について

新宿校地は、教員研究室、学生のための学習室改善のため旧館南側、京王プラザホテルに面した場所に南館(研究学習棟、鉄骨造4階建、延床面積1,848㎡)を建設した。

八王子校地には、施設拡充計画の第一期工事として、八王子校舎群の中心核となるよう1号館と2号館の中間に八王子図書館(鉄筋コンクリート造3階建、延床面積1,961㎡)を建設した。4月から開館する予定である。

また高等学校敷地内に電気科実習室(鉄骨造平家建、床面積289.74㎡)が5月に建設完了予定である。

○ 本学園関係叙勲者等について

昭和54年秋の叙勲で、流体力学の権威である共通課程・今井功教授及び耐震工学の発展に貢献した武藤清元評議員が文化功労者に叙せられ、加藤ライジ名誉教授が勲四等瑞宝章を授章された。(岡崎総務部長)

大学

○ 昭和55年度入学志願状況

55年度学部の入学試験は、2月6日~9日の4日間にわたって行われ、志願者は次のとおりであった。

理工系志願者は、一般に減少の傾向にあるが、本年度は共通一次の影響や併願者の減少等で志願者が少なかった。

部別	第1部		第2部	
	入学定員	志願者数	入学定員	志願者数
機械工学	180	1,791(2,551)	120	154(208)
生産機械工学				
工業化学	80	808(1,100)	90	69(136)
化学工学	50	442(472)		
電気工学	90	1,319(1,612)	110	209(308)
電子工学	90	1,447(2,002)		
情報工学		1,154(1,390)	110	296(487)
建築学	150	2,086(3,113)		
計	640	9,047(12,240)	430	728(1,139)

1・2部とも推薦志願者を含む。( )は前年度志願者数。

○ 昭和54年度本学工学博士の学位授与

本学大学院では、54年度中に下記のとおり論文博士3名、課程博士1名に学位を授与した。本学で本年度迄に授与した博士の数は、論文博士11名、課程博士4名となった。

(課程博士) 及川哲夫(本学博士後期課程電気工学専

昭和54年度卒業予定者数と就職状況

(55.2.22現在)

部	項目	学科									計
		機 械	生 機	工 化	化 工	電 気	電 子	情 報	建 築	学科不問	
第一部	卒業予定者数	218	134	95	81	136	102	72	235	—	1,023
	就職希望者数	208	123	89	73	132	98	65	211	—	999
	就職内定者数	208	123	89	73	132	98	65	211	—	999
	求人延件数(1・2部通)	2,470	1,272	630	389	2,317	1,731	710	1,389	1,835	12,743
第二部	求人延人数(〃)	3,479	1,600	873	477	3,339	2,546	1,069	2,337	4,226	19,946
	卒業予定者数	79	26	37	19	49	74	—	138	—	422
	就職希望者数	20	6	5	7	10	14	—	36	—	98
	就職内定者数	20	4	5	7	9	11	—	28	—	84

近況報告

攻修了・日本電子勤務)

論文題目「高分解能電子顕微鏡における原子及び原子集団のコントラストの解析」

(論文博士) 島崎昭夫(東京工業大学化学コース卒業・富士電気製造(株)勤務)

論文題目「有機酸無水物硬化エポキシ樹脂の硬化過程に関する研究」

小林放孝(本学博士後期課程電気工学専攻満期退学・東京都精神医学総合研究所勤務)

論文題目「眼球運動の情報理論的解析とその工学的応用に関する研究」

鳥羽栄治(本学修士課程電気工学専攻修了・信州大学勤務)

論文題目「ゆらぎの計測とその応用に関する研究」

○ 教学上の施設の増強

本学では、教育研究条件の改善をはかるため、新宿校地に南館(研究学習棟)、八王子校地に図書館、実験棟、製図棟等の施設建設計画があるが、この計画の内、研究室、学習室、会議室を含んだ新宿校舎南館(床面積延1,961㎡)が54年8月末に完成し、現在活用されている。八王子図書館(床面積延1,961㎡)も54年12月に工事が竣工し、55年4月から使用される予定である。

○ 昭和54年度卒業予定者数と就職状況

昭和55年3月卒業予定者数と同学生の就職状況を示すと下表のとおりで、学部卒業予定者は第1部1,073名、第2部422名、計1,495名、就職希望者は第1部999名、第2部98名、計1,097名であり、ほとんど全員が就職を決定している。(教務部長 平川紀一)



### □近況報告

#### ■高等学校■

##### 《学校行事》

昭和54年4/9(月)、入学式、新入生401名、5/4(金)、高尾山、景信山強歩大会、5/17(木)一年遠足、雨のため宇宙博に変更、6/13(水)、生徒会によるユニセフ募金、生徒教職員の浄財59,949円集まる。6/18(月)54年度第一回大学・高校連絡協議会、於新宿校舎会議室、大学側13名、高校側16名出席、54年度運営方針、推薦試験の改定、英・数・理学科間の交流、生活指導問題等検討協議、7/12(木)大学・高校連絡協議会小委員会於八王子校舎会議室、本学高校出身者の成績の追跡調査、卒論着手率等検討、意見交換、9/6(木)全校演劇鑑賞、東演「西の国の人気者」於八王子市民会館、9/19(水)、体育祭、10/24(水)、第一次推薦試験、184名受験、11/3(土)、11/4(日)学園祭、英語劇、自然科学部展示に高校カラーを出し、プロの歌手を交えたロックの競演と、母の会のバザーに入気集中、11/8(木)以降、11/18(日)まで二年修学旅行、三班に分かれ北九州及び山陽山陰へ5泊6日の旅、12/3(月)、第二次推薦試験、55年1/12(土)、推試合格発表一部126名、二部7名、1/17(木)、第二回大学・高校連絡協議会大学側7名、高校側15名出席、54年度のまとめ、来年度への継続確認、2/14(木)、一年普通科理科見学会、科学技術館。

##### 《クラブ活動》

○放送部 6/24(日)第26回 NHK放送コンテスト 東京都大会 テレビ課題部門1位、自由部門2位、団体総合部門3位、8/9(木)全国大会 テレビ課題部門入選

○自然科学部 11/30(金)NHK「みんなの科学」に生徒自作の「手づくり分光器」が採り上げられ、本校自然科学部員10名が出演、スタジオ内でも好評を博す。

○柔道部 7/20(金)、金鷲旗大会 福岡市、三年高橋君5人抜きで優秀選手として表彰を受ける。9/30(日)東京都高校学年別大会3年優勝、2年敢闘賞、1年2位。

《施設》懸案の電気実習室の建設決まる。予定地は高校プール東脇、大学製図棟の南側で3月初旬着工、5月末

竣工の予定。

《55年度志願者応募状況》普通科200名の募集に対し900名、工業科200名に対し500名、両科とも都内私立高校の平均応募率を超え、まずは順調な応募状況といえる。

(校長 遠藤鎮雄)

#### ■専門学校■

##### ○昭和54年4月昼間部を開設

専修学校制度が定められ、国が専門学校を短大相当の高等教育機関と格付け、その助成方針を打出して以来、高卒者の専門学校進学希望者が年々増加している現状に対応し、本校も昼間部土木科、機械科、建築科を開設しました。夜間部と同じ教育方針で、修学年限2年の専門技術教育を行っております。初年度入学生は、入学定員各科40名に対し、土木科64名、機械科57名、建築科103名でした。

##### ○昭和55年度昼間部の応募状況

昨年11月9日推薦入学面接試験を、本年2月21日一般応募者の入学試験を行いました。両者を合わせた応募者数は、土木科65名、機械科104名、建築科260名。入学許可者は補欠を含め、土木科67名、機械科83名、建築科172名でした。

尚、電気科、応用化学科の昼間部につきましても、各方面から強い要望があり、唯今開設準備中でございます。

##### ○夜間部の現況

夜学生の減少は、大学、高校、専門学校に共通した現象であり、夜間部を廃止する学校が続出する中で、本校は長い伝統に支えられて頑張っております。現在の在籍者、土木168名、機械102名、電気117名、建築647名造船28名、応化78名、金属6名、建築研究科47名、計1,193名です。これは最盛期と考えられる46年秋学期1,823名に比べ、約34%減となります。

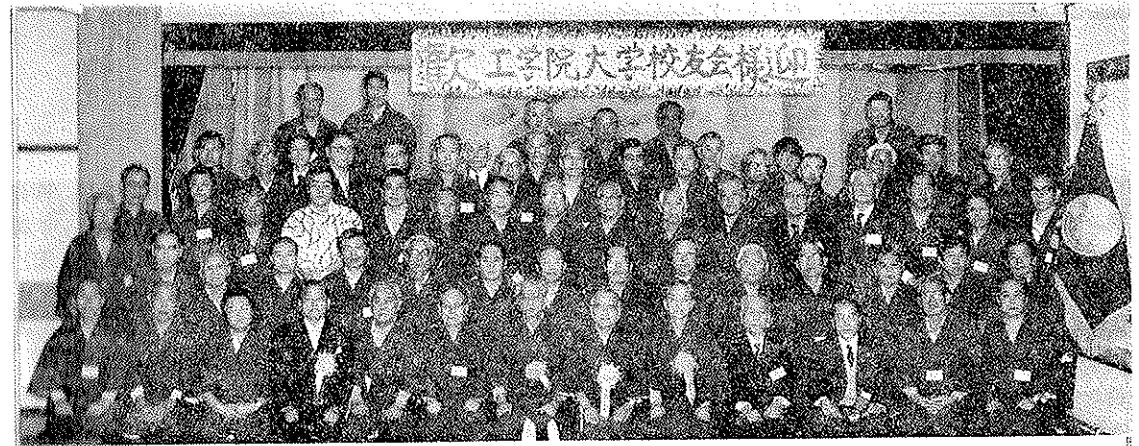
今後の社会が、益々高学歴化、専門化、多様化するのに加え、高齢化が進むことを考慮しますと、社会人の再教育、生涯教育の場としての夜間部が、必ず見直されてくるものと信じます。現在55年度春学期の学生募集中心でございますが、今後共格別のお力添えをお願い致します。

##### ○専門学校に対する公費助成

文部省は、教育改革の一つの柱として生れた専修学校制度を育成するため、色々な機関を設け、助成方針の具体化に力を入れております。55年度から、学校の指定寄付金、ガス電気税を非課税とし、また学生に対する育英奨学金貸与を実施することを決めたのも、そのあらわれであります。

本校は、この様な国家社会の要請に応え、また学園発展のためにも、全力をあげて努力して参ります。校友の皆様のご支援ご鞭撻を衷心よりお願い申し上げます。

(校務長 安原 豊)



### 昭和55年新年懇親会報告

— 広報部 —

日時 昭和55年2月3日

会場 熱海温泉「新道旅館」

出席者 71名

風は強いが好天に恵まれ、熱海の海は春めいた青味のあるきれいな色で冬を思わせるものはなかった。

熱海に近づく道中、各所の小屋がけで大粒のみかんが1箱1,000円で売られていた。海岸わきの新道旅館玄関ホールでは受付準備もあわただしく、やっと整った正午近く早やくも参加者がみえ始め受付が開始された。

定刻の2時30分の懇親会第1部(総会)が10分程おくられて開催された。

久保田副委員長の司会、篠原委員長の開会の挨拶があり、次いで前島会長から、昨年7月に校友会の推薦と法人理事会の互選で理事長に就任したこと、学園将来計画についてはプロジェクトチームが編成され、価値ある学校にしたいこと、90周年記念事業の募金は2億円の集まりをみたが、未だ不足であり、富士吉田セミナー校舎の建設に3億の費用を要するため、3月着工も決定した今、更に募金の協力を願いたい旨の挨拶があった。

次いで来賓挨拶に移り伊藤学長出席のところ都合により欠席のため、代行の山内常務理事から、学園の現況報告を兼ね次の挨拶があった。私立学校は卒業生の力が大切である。昨年9月校友会と同窓会の合併は心強く喜ばしいことである。学校施設、設備を前年度、今年度にかけて整えている。生徒9,600人、教職員520人、収入7,474(百万)(内帰属収入509.6)、然し消費支出に6億の超過支出となり、現状では健全財政といえないが、今後努力していく。尚施設として、南館(工費2億2千3百万円)、八王子図書館を建設し、今後富士吉田セミナー校舎の建設に向っている。建築許可も終り、確認申請

も55年2月に確認になり、3月下旬着工の運びとなっている。募金も2億円の寄附があるが、不足は1億5千万円(セミナー校舎3億、新宿土地5千万)、ここに募金期間を1年延長し、昭和56年3月までとし、寄附金は損金でおとせる故、更に皆さんの御援助をお願いするの意味のことが述べられた。

次いで小浪専門学校の来賓挨拶があり、多年(30年間)の懸案であった、専門学校法により、当専修学校は専門学校となった。また昨年より昼間部を設置し(土木、機械、建築の各学科)、本年4月より、応化、電気学科を増設の予定であるが、大学当局と調整中である。卒業生は15,000人となり、専門学校は益々発展していくと確信をもって努力していることなどが述べられた。

次いで従来、理事並に支部長として活躍された次の方々に、感謝状の贈呈が前島会長により行われた。

渡辺彦太郎氏(北海道支部長)、清水愛次郎氏(愛知県支部長)、深津宗三郎氏(三重県支部長)の三者であるが、お三方欠席の為、当日出席の三重県支部長、強力氏に代表として渡された。

次いで小野塚総務部長より只野文哉氏(大15A74電)が、昭55.2.1付で法人の監事に推薦された報告がなされた。

次に報告事項として落合拡充部長より、全国大会中国大会開催の発表があった。

第2部までの時間を部屋に戻り、入浴、散策となり、午後6時宴会場舞台前に勢揃い、記念撮影を行った。

第2部宴会は、内山副会長の開会の挨拶で始まった。遠来者の紹介を落合支部拡充部長より成され、各自一言ずつ挨拶に立ち、そして八木副会長の音頭で乾杯。芸妓の舞いを皮切りに次第に宴たけなわとなり、時のすぐ

ることも知らず、8時頃終了も間近となり、学園歌の合唱、前島会長の母校万才、山内先生より校友会万才を三唱、森山副会長の閉宴の挨拶で解散となった。  
翌2月4日(節分の日)、朝食をとり一献したため、

昨夜の記念写真が膳に配られる。よく晴れた朝、昨日と違い平穏な熱海の青い海をみつめながら思い思いに新道旅館を離れていった。(金尾 記)

## 第4回全国大会(中国大会)開催のお知らせ

委員長 落合康男

第4回全国大会が、「中国大会」の名称のもとに、下記の通り開催されます。今回は、合併後初めての大会で、開催地広島県支部を中心にして、大阪、京滋、岡山、山口、鳥取、島根、香川、愛媛、福岡、大分、佐賀、長崎の各県支部に協力をお願いすることになりました。日本三景の一つ宮島は、丁度紅葉の時期にあたり、岐島神社には、神社建築の第1人者である岡田貞次郎先輩(T7A建57)がおられ、神社を中心にご案内下さることになっております。また当日は、応化会の中国地方大会(仮称)も同時に開催されます。詳細は、本誌折込みの案内ビラをご覧ください。

尚、合併後の状況から、会報の発行は原則として年1回ですので、全会員へのご案内は、今回のみとなるかも知れません。まだだいたい先のこと、ご無理とは思いますが、なるべく早目に、出来れば、すぐにも、校友会事務局宛、お申込み下さい。多数会員のご参加を切望しております。

記

1. 日 時 昭和55年11月8日(土) 15時開会
2. 会 場 広島県佐伯郡宮島町 宮島グランドホテル、電話(08294)4-2411(代)
3. 会 費 1人 15,000円 (詳しくは本会報折込のビラを参照下さい)

## 近況報告 (単体同窓会)



### 機械工学同窓会

会長 八木平八郎

多年にわたる合併への努力が実を結び、去る54年9月合併総会を迎えることができました。備に会員諸氏のご支援の賜と厚く感謝申し上げ、共に喜びあいたいと存じます。又合併へ微力ながらつくらせていただいた身にとって感慨深いものでもあります。この新たな出発を迎え、今後とも一層のご支援、ご協力のほど衷心よりお願い申し上げます。

機械工学同窓会としては、去る53年3月の総会において、機械系諸先輩をお迎えすべく、会則を変更いたしました。現在3百数十名の工手学校、専門学校等の諸先輩

と共に活動をいたしております。これは合併へ、共に考え共に行動していただくためのものであります。

又昨年は大学30周年を迎えました。これを記念した同窓会誌8号にこれら合併経過などくわしくご報告申し上げます。

機械工学同窓会も多くの問題をかかえております。その一つは財政の健全化であります。これに対しては、長期財政委員会の答申をもとに、実施にうつすべく研究を重ねております。

その二として、同窓会のあるべき姿については、ビジョン委員会の答申を実現すべく準備を進めております。

本年度、新たな理事、評議員諸氏を迎え、これら問題を解決するために努力を重ねております。よりよき同窓会、そして校友会のために今後とも宜しく願い申し上げます。会員諸氏のご健康とご繁栄を心よりお祈り申し上げます。



## 電気同窓会

会長 内山 太

電気同窓会は、昭和54年9月2日(日)の学園同窓会と校友会との合併総会に向け、我が同窓会に入会される校友会OB代表と数回の会議を行い、また理事会を開き、合併に関して合併委員会で合意された案にそって種々検討を行った。この結果、役員改選案、合意案も極めて円満にまとまり、OBより、南、角田、竹内、久保、梅原の各氏が、若手からは、長嶋氏が理事に推挙された。また会費、運営費についても理事会で可決され、これらの案件は、昭和54年9月8日に四谷の主婦会館に於て開催された総会で可決承認され、合併に関する問題は決着した。合併に関する問題を討議検討され、すみやかに決定していただいた。会員、役員諸氏の良識に深く感謝の意を表し、更に今後の会の発展のために御助力を御願い申し上げます。

毎年、四谷の主婦会館で開催される総会の懇親会は非常に有意義で楽しい会ですので会員各位の積極的な参加をお待っています。

本年の事業計画は、理事会、総会等のほかに大きなものとして、会員名簿の発行を行います。これは有料配布ですので同窓会事務局へ申込んで下さい。次は、電気同窓会報の発行です。内容的にも一層立派なものにするため会員諸氏の投稿をお待っています。更にまた90周年事業募金の協力がありますが、皆様の更にあたたかい御助力をお願いして居ります。

今年度社会へ巣立つ卒業生会員諸氏には、同窓会より記念品を配布する予定でございます。実社会での大いなる御活躍を願うと共に同窓会、校友会への協力をも併せてお願い致します。



## 建築同窓会

会長 小高 鎮夫

昨年9月2日、校友会の合併総会以後、建築学科同窓会は12月15日に先輩をまじえての第1回の総会を開催致しました。工手学校、工学院の卒業生の校友会々員が建築学科同窓会の会員になるための規約改正はすでに52年

の総会で承認されております。

現在は校友会、同窓会の会員相互の交流をめざしつつここ数年合併促進のために低調であった建築学科同窓会の組織造りを全国的視野に立って確立して参りたいと思っております。

先の合併後の新運営委員を迎えた運営委員会では、(1)合併後の新建築学科同窓会名簿作成、(2)新企画による会誌発行、(3)90周年募金協力推進、(4)運営委員会の再構成等新建築学科同窓会のスタートに向けて活発な意見が出されました。会計年度も10月~9月を、校友会の会計年度に近づけ、5月~4月と昨年総会にて変更しております。

昨年の読売新聞社主催の住宅設計競技に今年大学院卒業の小川厚君(武藤研究室)が1等入選を致しました。その他、セントラルガラス主催の小原君(武藤研究室)が佳作に、日新工業主催にも3等又、日本建築学会主催には高城君(武藤研究室)と柴君(波多江研究室)が佳作で佳作に入選しております。

これは昨年の競技成績ですが、本校は毎年多くの競技設計に上位入賞者を出しております。新会員のすばらしい活動振りを今年は皆様に近況として御報告し、先輩、後輩の団結と共に、新たな建築学科同窓会の発展を会員皆様と共に期待したいと思います。



## 応化会

会長 間宮富士雄

応化会の活動状況の第一に御報告すべき事は、4年周期に発行している会員名簿の件です。すでに皆様も御承知のとおり、学園同窓会と校友会の合併が昨年9月2日の新会総会にて完了し発足致しましたので、第25回応化会総会にて決定致しましたとおり、今回の名簿には工手学校、工学院の採鉱冶金科の先輩卒業生を応化会の正会員として迎え、正式にこの名簿に記載致す事になりました。目下、名簿委員の方々の御尽力により3月中旬に発行すべく手配中であります。

会の最も重要な目的の一つに会員相互の親睦を図ることがありますが、このためにはなんといっても第一に名簿の作成が重要な仕事であります。よって、この名簿が定期的に発行されしかもその内容が確実であり、且つその使用に便利であることが、会が健全に活動しているあ



かしくもなります。よって近く発行される1980年度版会員名簿に御期待下さい。

しかしながら、今回も又全会員に対して名簿を無償で配布することが経済的な理由から不可能でありますので有償配布という形式をとることになりました。この点御諒承の上是非共購入の上御利用を賜り度いと存じます。また経済的負担の一端をおぎなうために、有料広告を会員の方に御願ひ致しました処、多数御協力を賜り改めて御礼申し上げます。さらに学生会員に対し今回は全員に配布し、諸先輩が如何なる職場において活動しているかを十分認識して戴くと共に、大いに将来の参考に供して戴き度いと存じます。

活動状況の第二として毎年実施致しておりますのが講習会の開催であります。すでに過去に「国家資格を取得しよう」「環境計量士受験講座」「理工系技術者のための英語講座」を実施し非常に好評を得ており、さらに新しい企画を計画中でありますので御期待下さい。また講習会に関し御意見がありましたら是非共御一報を賜り度いと存じます。出来る限り会員の皆様の意向を反映させ度いと存じます。

活動状況の第三として創立90周年記念事業の一環としての募金の促進化があります。応化会は募金開始当初より、心ある各位の積極的な協力により、応募件数も多く募金委員一同心より深謝致しておりますが努力目標額にはまだ到達しておりませんので、未だ募金に協力されていない方々はこの際は是非共御協力の程を切望致す次第であります。

また、本年度は校友会の中国大会が11月に開催される予定であります。その際には応化会の地方懇親会を実施致し度いと存じますので御参加下さい。

以上、応化会の活動状況につき簡単に記述致しましたが今後共会員皆様方の御支援御指導を改めて御願ひ申し上げます。



### 専門学校同窓会

会長 森山 健次

52年度総会は53年6月4日母校第1会議室にて開催、議事および報告事項も変更なく承認され、校長・来賓祝辞につづき参議院議員野末陳平氏の講演があり“現在の

女性中心社会”の現状をユーモアたっぷりの話しに一同満悦して30分も延長するほどだった。今回名誉会員1号に本会をご指導下さった大岡吉呂氏を推挙し賛同を得た。つづいて懇親会を開催、清藤氏の名司会により楽しい一日を過ごすことができた。雨にもかかわらず118名の出席を得て盛大な会になった。

54年の新年会は熱海の新道旅館で開催、総勢60名の出席を得た。

53年度総会は54年6月3日母校講堂にて前年同様に行われ、本年は母校に昼間部が開設されたのを記念として16mm映写機を寄贈した。本年は新役員が選出されたのでその紹介と前会長小浪博校長先生を名誉会長、鈴木光夫先生を名誉会員に推挙し賛同を得た。今回の講演は竹腰美代子女史の“体操を中心した健康管理”を実技をまじえて面白可笑しいお話があった。つづいて懇親会に入り総勢130名の出席を得て近年にない盛会となった。

55年の新年会は東京に近い鶴巻温泉陣屋にて開催、総勢63名の出席を得た。



### 高等学校同窓会

会長 足立 剛一

同窓生の皆様、毎日お忙がしく仕事に追われている事と存じます。

世相も何かと慌しく日本の前途多事多難と予感させます。

さて工学院大学高等学校同窓会もお陰様で順調に発展いたしております。

学校の近況をかねて2、3ご報告申し上げます。

まず、かねて懸案となっておりました本学園内の各学校単位の同窓会と古い歴史を持つ校友会との合併問題が永い間の紆余曲折を経て無事成立し本年から「社団法人工学院大学校友会」という名称のもとに新発足するはこびとなりました。これにとまなまして、高等学校からも相当数の理事が此の会に出席する事になりますが、どうか理事に選出された方々は積極的に参加され、高校の立場に立ってお智恵をお貸し下さる様、御願ひ申し上げます。

高校も昭和54年度を順調に経過し、2月の入学試験、3月3日の卒業式も無事終了、昭和55年の新学期に向っ

てその準備に忙がしい昨今です。

新年度には新たに、電気実習室を建設し、諸設備も着々充実に向っているとの事です。母校の発展は卒業生にとっては何よりも嬉しい事です。吾々同窓会役員も会員諸兄と、緊密に連絡し、母校の為に出来るだけの事をしたいものと考えております。

どうか今後共高校同窓会ならびに本学園の発展の為に協力賜ります様御願ひ申上げて近況報告にかえる次第です。

### 校友会だより

#### ○社団法人工学院大学校友会 54年度行事

- 54. 7. 22 第31回 評議員会
- 〃 第1回 理事会
- 54. 8. 28 第2回 〃
- 54. 9. 2 第23回 定時総会
- 54. 10. 28 54年度全国支部長会議
- 54. 12. 15 54年度建築学科同窓会総会
- 54. 12. 19 第3回 理事会
- 55. 1. 27 55年度専門学校同窓会新年会
- 55. 2. 3・4 55年度新年懇親会
- 55. 2. 20 第4回 理事会
- 55. 3. 19 第5回 理事会
- 55. 4. 18 第6回 理事会
- 55. 5. 18 第32回 評議員会
- 55. 5. 25 第24回 定時総会
- 55. 6. 1 55年度専門学校同窓会総会

#### ○市長・市議当選者

- 吉野和男 B・機101卒 府中市長 55. 2. 11
- 渡辺幸男 G・機4卒 千葉県我孫子市議員 54. 12. 6

#### ○読売新聞社主催住宅設計競技一等入選者

- 小川 厚 G・建53卒 55年大学院卒業

#### ○支部長への感謝状

- 前北海道支部長 渡辺彦太郎 S33. 8~55. 2 22年間
- 前愛知県支部長 清水愛次郎 S50. 4~54. 5 4〃
- 前三重県支部長 深津宗三郎 S51. 2~55. 1 4〃

#### ○訃報

- 相模支部長 久保田松次郎 (A・59建) 54. 12. 23死亡
- 相談役 宮田 益雄 (A・69土) 55. 1. 20〃

#### 第1回理事会

昭和54年7月22日(日) 校友会会議室

- 議事 1. 会長、副会長、常任理事の選出について  
会長、前島為司、副会長、6同窓会々長、他常任理事6名選出
2. 昭和53年度事業報告および収支決算承認について
3. 昭和53年度財産目録承認について
4. 昭和54年度事業計画および収支予算承認について

#### 第2回理事会

昭和54年8月28日(日) 校友会会議室

- 議事 1. 総会準備について
2. 各理事の役務分担について
3. 議事録の配布について

#### 第3回理事会

昭和54年12月19日(水) 大学会議室

- 議事 1. 新年懇親会について
2. 全国大会(中国大会)について
3. 各理事の役務分担について(発表)
4. 90周年募金協力について
5. 会報発行について
6. 会費検討について

#### 第4回理事会

昭和55年2月20日(火) 大学会議室

- 議事 1. 会報年2回発行について
2. 55年度予算編成に対する各部予算作成について
3. 第4回全国大会運営委員会委員選出について
4. 90周年記念募金協力推進委員会発足について
5. 会費検討特別委員会設立について
6. 会員カード取扱規定について
7. 事務員の業務について
8. 校友会のバッジについて



### 支部だより

#### 支部の活動状況報告

支部拡充部長 落合康男

全国の支部組織は合併後もこれまで通りで、新校友会の地区別の下部機構として活動を続けている。合併後の各支部の活動状況の一端をお知らせする。

1. 福井県支部総会  
54年9月23日(日) 10:00: 鯖江市、神明苑で
2. 岐阜県支部総会  
54年9月23日(日) 16:00: 岐阜市、スポーツパルクで
3. 新潟県支部総会  
54年11月3日(土) 13:00: 新潟市、田中ホテル
4. 台湾校友会総会  
54年11月11日(日) 12:00: 中華民国台南市七海一楽園。12名の会員訪台。昭和54年11月10日から4日間、杜瑞昌会長(S31G化5)のお世話をうけ、総会出席を兼ねて台南、高雄の各市を中心に観光を行った。
5. 京滋支部設立総会  
54年12月2日(日) 15:30: 京都市、楠荘  
大阪支部を分割し、京都府、滋賀県、大阪北摂地区を区域に、京滋支部が発足した。支部長に石川太一氏(T10A機64)が選出された。
6. 神奈川県校友会同窓会合併祝賀会  
54年12月9日(日) 13:00: 横浜市、陽華楼  
神奈川県の4支部(横浜、川崎、相模、小田原の各支部)に、同窓会々員の加入を促進し、合併の祝賀を兼ねて、4支部の連携をはかるため開催された。尚、今後は4支部連絡協議会をもうける。
7. 三重県支部総会  
55年1月27日(日) 11:00: 伊勢市、京屋  
支部長深津宗三郎氏(T15A建74)が勇退。新支部長に強力辰夫氏(S11B造94)が選出された。
8. 北海道支部総会  
55年2月9日(土) 17:30: 札幌市、ホテルアカシヤ  
前支部長渡辺彦太郎氏(T8A電59)の功をたたえ、慰労の宴がはられた。

#### 井出英人氏 第27回オーム技術賞受賞

- 昭和41年3月 工学院大学電気工学科卒
- 昭和45年3月 同大学院修士課程修了
- 昭和41年4月 青山学院大学理工学部電気電子工学科勤務 現在同大学理工学部講師
- 昭和51年9月 「指先の振動感覚を利用した文字読み取り刺激装置の研究」で工学博士(工学院大学)

今般「感覚の計測」で第27回オーム技術賞を受賞。現在青山学院大学理工学部において医用電子・生体工学特に感覚の計測とその応用について研究中。

#### 広報部員名簿

- 森山健次(D建119) 副会長広報部担当
- 榎本忠良(F電1) 常任理事広報部長
- 角田孝助(A電72) 理事広報部員
- 金尾武彦(B建99) //
- 蓮池嘉和(G電1) //
- 松島一郎(B建83) //
- 武笠忠(G機5) //

#### 編集後記

合併後の第1回の会報を発行することになりました。広報部員には、別掲の通りベテラン・新人を組み合せ編成され、会員の皆様のためより良い会報を発行して参り度いと思っておりますので、ニュースや原稿を従来同様に宜しく御願ひ申し上げます。

会報の編集に当り先ず問題になりましたのは、従来の会報は3,500部位でしたが、今後は30,000部程となることで、会報を表紙4ページ、中身16ページで編集しましたが、郵送料迄を考えますと約200万円の費用となり、これは従来の学園同窓会の方式によりまして各単体同窓会に負担して戴くこととなります。

会員の方々より会報発行回数について意見がございしますが、各単体同窓会の予算の関係では年1回が限度の様で、理事会に提案致し、せめて年2回発行出来る様に各単体同窓会の方々とは相談しながら実現させて行き度いと考へて居ります。

次に会報を出来るだけ有効に活用することで、今回は総会の開催通知を兼ね、そのため予算、決算を載せることに致し、総務部、経理部を始め各位に大変御無理を申し上げますが、心よく御協力戴きましたことを御礼申し上げます。

(広報部長 榎本忠良)

# 良心的な電気工事

- ゆたかな経験
- すぐれた技術



## 東光電気工事株式会社

取締役会長 杉山 慎 取締役社長 松本福男

東京都千代田区西神田1-4-5 電101 電話/東京292-2111大代表  
支社/札幌・仙台・丸の内・横浜・名古屋・大阪・福岡

# 鋳鋼・ミーンナイト鋳物

1個の最大重量 鋳 鋼 30Ton  
ミーンナイト 30Ton

(土木54卒) 会長 鈴木 信次



## 川口金属工業株式会社

川口市宮町18番19号 TEL川口(0482)56局2111(代)  
丸の内1-1 交通公社ビル TEL(211)4871-2

高崎金属工業株式会社  
鈴木パーライト株式会社



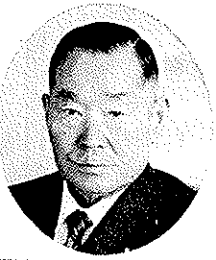
編輯集兼 角 孝 助  
印刷所 東京都中央区 加丁五十一  
弘報印刷株式会社  
電話(552)九七三一

發行所 社団法人 工学院

友会

東京都新宿郵便局 郵箱第十三号  
東京都新宿区 西新宿一丁目二  
電話(澁橋347)二〇六四番  
振替東京九一〇八番  
一六〇一九一

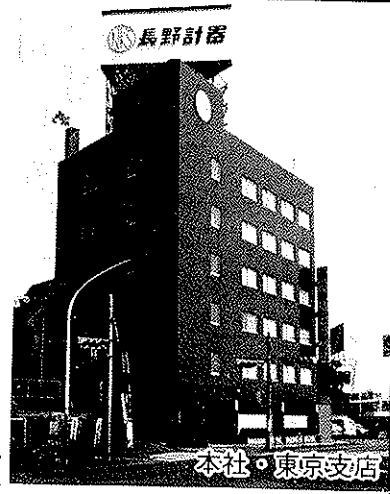
# 世界水準を誇る品質と技術



圧力計 温度計

カロリーメータ 液面計

代表取締役社長  
計量士  
西村 重信  
昭和10年機関科第1期



本社・東京支店



上田工場



熱技術センター



株式会社

## 長野計器製作所

本社	東京都	大田区	東馬込	1丁目	3番	04番	分
上田工場	長野県	上田市	大字	秋田	1丁目	5番	0代(代表)
東京支店	東京都	大田区	東馬込	1丁目	5番	3番	0代(代表)
大阪支店	大阪市	東区	北久	1丁目	3番	1番	(代表)
名古屋支店	名古屋市	中区	錦	1丁目	1番	2番	0代(代表)
広島支店	広島市	中区	橋本	1丁目	1番	1番	5代(代表)
九州支店	福岡市	博多区	博多駅前	3丁目	12番	12番	(博多充和)
札幌営業所	札幌市	中央区	北	2丁目	1番	1番	9(三井)
仙台営業所	宮城県	仙台市	一番町	1丁目	13番	2番	0号(村士)
静岡営業所	静岡県	静岡市	伝馬町	2丁目	2番	8番	(三井)
四国出張所	香川県	高松市	長町	1丁目	11番	3番	1代(代表)
富山出張所	富山県	富山市	八人町	9丁目	1番	1番	(セビル)
ブラジルサンパウロ連絡事務所	a/c MITSUBISHI BRASILEIRA IMPORTAÇÃO E EXPORTAÇÃO LTDA. Rua Dr. Bernardino de Campos, 98-13 - Paraisópolis, São Paulo, BRASIL.						

熱技術センター